

臨床研究に関する情報公開

＜人を対象とする医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞ 心房細動患者における左房前壁の低電位領域と心外構造物の関連性を明らかにするための探索的研究
＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部附属板橋病院 循環器内科（研究責任者）奥村 恭男
＜研究期間＞ 承認日 ～ 西暦 2023 年 3 月 31 日
＜研究の目的と意義＞ 発作性心房細動は、約 9 割が肺静脈起源であるといわれています。しかし、心房細動が持続する原因は解明されていませんが、可能性のひとつとして左房と呼ばれる心房細動の首座となる部分の心筋のダメージが挙げられています。現在、年齢や、高血圧、心房細動持続期間の長期化などにより左房が大きくなることにより心筋の荒廃が進行するとされていますが、左房の外側にある大動脈や椎体、食道（以下、心外構造物）などの関連性については解明されていません。今回、当院において心房細動に対するカテーテルアブレーションを施行した患者さんを対象に、過去の心臓 CT 画像、アブレーション時に使用する 3D マッピング画像、カルテ内の情報等を用いて心外構造物と左房心筋の荒廃の程度の関連性を解明することを目的とします。
＜利用する試料・情報の項目＞ 診療記録・心臓 CT 画像データ・3D マッピング画像（アブレーション時に用いる）
＜対象となる患者さん＞ 西暦 2016 年 9 月 1 日～西暦 2019 年 9 月 30 日の期間に当院循環器内科で心房細動に対するカテーテルアブレーション治療を行った方
＜研究の方法＞ 個々の患者さんにおいて、上記の過去の情報を用いて心外構造物の位置関係を測定し、左房心筋の荒廃の有無との関連性を統計学的に解析します。
＜研究組織＞ 川口市立医療センター 林田 啓

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

循環器内科

氏名:奥村 恭男

電話:03-3972-8111 内線:(医局) (PHS) 8050